

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年 1月 7日

学部・学科名 外国語学部・日本語学科

担当教員氏名 宮本 真有

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	銘傳大学日本語教育実習
3. 渡航先国名	台湾（オンラインにて実施）
4. 派遣期間	2021年 3月 8日（月）～ 2021年 3月 19日（金） 12日間
5. 派遣先教育機関名	銘傳大学
6. 参加学生数	2名
7. 派遣目的	銘傳大学（台湾桃園）応用日本語学科学生を対象として、日本語授業の見学、教壇実習を行い、あわせて、異文化体験や銘傳大学生との交流の機会をもつ。
8. 派遣内容	① 事前指導 : 教壇実習で担当する予定の教授内容につき、授業計画立案、教案作成などを行い、指導を受ける。 ② 教壇実習 : 銘傳大学応用日本語学科の授業において、各実習生あたり2回の教壇実習を行う。実習に先立って銘傳大学教員による教案指導を受け、実習後に批評・助言を受ける。 ③ 異文化体験 : 銘傳大学の学生や教員との交流を通して台湾の人と文化に触れる。 ④ 実習報告書の作成

<p>9. 成果</p>	<p>教壇実習に至るまでの過程で、担当課への理解の深め方、教案作成、学生たちとの関係づくり、現地校の背景情報収集など、日本語教育に携わる者として必要なスキルの向上に繋がった。2度行った教壇実習では、その都度担当教員と振り返りを行うことで、自らの教師としての強みや弱みなどを把握したり、今後への改善点を見出したりしながら、常に学び続ける姿勢を培った。また、現地の学生たちのニーズ調査も兼ねて行ったLINEでの交流会では、そこで得た知識を教案に役立てたり、現地の学生の生活や興味関心などについて知ったりすることができ、台湾の文化に対する理解も深まった。</p>
<p>10. 備考</p>	

以上

## オンライン実習を振り返って

2020 年は新型コロナウイルス感染症の流行によって生活様式が大きく変わり、とにかく異例なこと尽くしな 1 年でした。しかし、日本語学科及び銘傳大学の先生方の尽力のおかげで、オンラインという形で実習が叶いました。完全に例年通りとはいきませんでした。が、とても有意義な実習でした。

実習は銘傳大学の学生による中国語講座から始まりました。日本と同じく漢字圏なので、単語の意味などはなんとなく予想が出来ましたが、発音に大苦戦しました。しかし、教えてくれた\*\*\*先生が根気強く、丁寧に教えてくれたので OK がもらえるまで何度もトライすることが出来ました。この講座を経て、中国語の知識だけでなく、生徒との向き合い方や授業の雰囲気づくりについて改めて考えることが出来ました。同時に、タイムラグがある zoom で、一対複数で語学の授業をすることがいかに難しいかを体感しました。

本格的に実習が始まる前に、先輩方の実習の記録や教案を分析し、教案の第一案を作成しました。しかし、ボランティア活動などの経験もなく、人に教えるというのが初めてだったため、まったく教室のイメージがつかめず、最後まで書ききるのにとっても苦労しました。特に初級のクラスでは、既習の文型が少なく、教師が使える表現が限られていることに戸惑いました。また、教案とともにスライドも作成しましたが、使用するイラストや写真の選定や文字とのバランスなど、考慮すべき点が多くあり、ここでも長い時間を費やしました。

事前指導から教壇実習までの期間は、作成した教案を、指導担当の先生からいただいたフィードバックをもとに手直しをする作業が主になりました。一つ修正するとそれに伴って変更しなければならない箇所が発生したり、そもそも練習方法や流れを見直したりする必要があったりして、何度も書き直しを繰り返しました。しかし、ここで教案と格闘したおかげで、自然に流れが頭に入り、結果的にスムーズな授業進行に繋がりました。また、教案を作成する際に気を配るべき点や、授業の組み立て方など、実践的な知識を身につけることが出来ました。

実習前に、授業見学として授業風景を録画したビデオを視聴しました。それまでぼんやりしていた教室や学生のイメージを具体的につかむことができましたが、特に初級のクラスで中国語が使われる頻度が高く驚きました。中国語講座を受けたとはいえ、教室で使えるようなレベルではなく、教師がすべて日本語で話す想定で作成した教案で果たして授業が成立するのかとても不安になりました。

初めての教壇実習は不安と緊張で足の震えが止まりませんでした。しかし、銘傳大学の学生が授業にとっても協力的であったため、驚くほどスムーズに進みました。積極的な学生が多く、実際に対面で授業が出来ないのがもどかしく感じました。実習は全部で二回ありましたが、二回目の実習は気持ち的にだいぶ余裕がありました。一回目の実習の反省を経て、クラスのより具体的なイメージをもって教案を作成できたことや、改善点を生かしたいという意欲が湧いたことが大きかったように

思います。学生の発言に対する自然なレスポンスやアドリブでの解説なども取り入れることが出来ました。しかし、完璧だと思えるような授業ではなく、改善点も多くあり、教えるということの難しさを痛感しました。

実習では、うまくいった部分も改善すべき点もたくさんありましたが、教えるということの楽しさや大変さを身をもって学ぶことができました。現地の学生との密な交流が出来なかったことは残念ですが、アクティビティや環境の変化がないぶん、教案や授業に集中できたという点では良い面でもあったのかなと思います。また、多少のトラブルには動じない度胸も少しは身についたのではないかと感じています。大変な時勢ではありましたが、改めて、貴重な経験の場を用意してくださった先生方に感謝いたします。